

忘れない ― 本当の終戦まで ―

沖縄県立首里高等学校三年 石川 幸夏

七十三年前の今日、
六月二十三日。

たくさん犠牲を払った沖縄戦は
終戦を迎えた。

本当にそうだろうか。

振り返れば今もそこに

戦争の痛々しい傷跡が残されている。

あの日の悲しみや怒りが

確かにこの地には残されている。

沖縄戦は、まだ本当の終戦を迎えていない。

綺麗に舗装された道路のそばの

歪に崩れた石垣

どこまでも広がる青い空を

私たちの頭上を

爆音と共に飛んでゆく戦闘機。

そのどれもが

私たちに呼びかける。

「忘れないで」

「二度とくり返さないで」

あの時代を生きた先人たちの

心からの叫び

心からの願いが

私たちの何気ない毎日に

密かに込められている。

恐ろしい戦争の記憶は

私たちにも受け継がれている。

この島で起こった惨劇を

私たちは知っている。

豊かな自然と人々の笑顔が

降りそそぐ鉄の雨によって

奪われてしまったことを。

まだ学生だったはずの彼らが

兵士として

若すぎる命を散らしたことを。

でも

この島が七十三年間

平和を目指して歩み続けた歴史を

私たちは知っている。

唄や踊りが島に彩りをもたらし

ゆつくりと取り戻された笑顔。

平和を尊ぶ笑顔の下に

私たちは今日も生きている。

大丈夫。

私たちが戦争の記憶を忘れない限り
きっとこの島は

本当の平和を手に入れることができる。

本当の終戦を迎えることができる。

今

こうして平和を祈るあいだにも

世界のどこかで

また新たな悲しみが生まれている。

海の向こうで

また過ちがくり返されようとしている。

戦争を引き起こすのが私たち人間の憎しみなら

戦争を終わらせることができるのは私たち人間の

願いだけだ。

誰もが手と手を取り合って

夢を語り合える明日をつくりたい。

そんな願いが

平和な世界をつくっていく。

約束しよう。

私たちはこの島に

本当の平和をもたらすことができる。

この島から世界へ

平和の種をまきつづけることができる。

凄惨な地上戦の過去を背負った

沖縄に生まれた私たちには

その使命がある。

世界から悲しみが取り除かれた時、

この美しい島は

永遠の終戦を迎えることができる。

六月二十三日。

犠牲者の魂を慰める日。

沖縄の広大な空と

優しく輝く青い海に私たちは約束する。

この島の悲惨な歴史は

もう二度と誰にもくり返させない。

平和の種から

笑顔の花が咲くその日まで。

私たちは本当の終戦を追い求める。